

連 載

新興国ウォッチ！ <第7回>

為替制度(7): 中国における通貨バスケット制

多田 忠義

中国における為替管理制度

中国は2005年7月21日、それまでの米ドルペッグをやめ、通貨バスケットを参考にした、管理フロート制に移行した。銀行間為替市場における人民元の対米ドルなどの外貨取引価格の変動幅は、当局によって管理され（対米ドルの場合、前営業日取引仲値の上下1%以内）、通貨バスケットに対して人民元を連動させていないという特徴をもつ。また、為替の管理・運用にあたっては、国家外貨管理局が外貨管理を所管し、中国人民銀行が人民元レート等の管理等を所管する。なお、通貨バスケットの構成は非公開である。

世界最大の外貨準備高

12年9月末現在、中国は3.29兆米ドルの外貨準備高を有し、その額は世界第1位である。これは、外国為替市場に政府が積極的に介入して人民元レートを安定化させながら、対外貿易（輸出）や外国直接投資の拡大を図ったためと考えられる（図表1、2）。通貨バスケットを参考とする管理フロート制に移行した05年以降、緩やかに人民元高へと舵を切ったが、08～09年の世界経済低迷時には、対米ドル為替レートを事実上ほぼ固定するなど、依然として中国当局による為替コントロールが行われている。

現在、人民元の外貨為替レートと購買力平価との間には大きな隔りがある。世界銀行（World dataBank）によれば、11年の購買力平価は1米ドル＝4.16人民元であるのに対し、為替レートは1米ドル＝6.46人民元であった。近年、この差

は中国のインフレや緩やかな人民元高政策により縮まる傾向にあるが、依然、人民元の切り上げ圧力が高いとみられる。

今後の中国における為替管理

中国経済が11年1～3月期以来7四半期連続で減速したことを受けて、輸出回復を狙ったとみられる対ドルでの人民元安が一時強まった。一方で、日欧米で金融緩和が相次ぎ、国際金融資本が中国に流入しやすい状況にあるため、人民元高の圧力は増している。中国当局は、為替変動の自由度を高める方針を表明したものの、急激な変動による中国経済悪化を防ぐために、今後も為替レートの安定化に向けて引き続き介入すると思われる。

